

# 観察しよう！くらしの道具

道具の観察ワークシート③ はかる道具

## ・ 竿秤(さおばかり)



### ■ どんな道具？

てこの原理を利用して、重さをはかる道具で、「棒ばかり」とも言います。竿と錘(おもり)はセット使用し、物差しのように竿につけられた目盛(めもり)で重さをはかります。はかるモノによって、大小様々な種類があり、少し古い竿秤は、目盛が「貫(×)」「かんめ」「匁(もんめ)などの重さをはかる単位が使われています。持ち運びしやすいため、市場(いちば)などで量り売りをする時にもよく使われました。

### <使い方>

- ① 竿の端に垂れ下がっている鉤(かぎ)に、はかるモノを引っかけてつるす。
  - ② 鉤の近くについている下げ緒(お)を右手で持つ。(ここが、支点となる)
  - ③ 鉤と反対側の竿の端から、左手で錘を吊り下げ、少しずつ左右に移動させ、竿が水平になるようにバランスをとって釣り合わせる。
  - ④ 釣り合った錘の位置の目盛を読んで、鉤に引っかけたモノの重さをはかる。
- ※ 竿秤ごとに、はかれる重さの範囲が目盛で記されており、目盛の数値よりも重いモノや軽いモノは、はかることができません。

### 【体験】 ★重さをはかってみよう！

写真の竿秤は「五百匁～二貫」の目盛がついています。(一貫=約 3.75kg、一匁=約 3.75g) 重さの単位は、昭和 34 年(1959)に貫から kg に統一されました。

### ■ 写真の竿秤は最大〇〇kgまではかることができる？

[ 約                      kg ]

### ■ 竿秤の工夫を見つけよう！

- ・ 1 つの錘でいろいろはかることができます。
- ・ 目盛は数字ではなく、銀色の(                      )の並び位地で表されており、(                      )場所でも目盛が読み取れるような工夫がされています。
- ・ どこで製造され、竿と錘がセットであることが分かるように、(                      )と両方に記されています。